

# 千秀だより

横浜市立千秀小学校

12月号

平成28年(2016)12月1日



140周年行事ありがとうございました、～矜持(きょうじ)・プライド～

校長 市川 幸 男

校庭の大船行きバス停前に大きな銀杏の木が数本並んで立っています。この時期、その葉を黄金色に染め、朝日に輝く様は、本当に見事なものです。まるで厳冬に立ち向かう覚悟を表しているかのようにも感じられます。先日は記録的な早さの雪も降り、いよいよ冬の到来、師走を迎えました。体調管理をしっかりとし、元気に冬休みを向けられるようにしたいです。

さて、千秀小学校では11月20日、保護者の皆様・地域の皆様のご支援のもと、140周年記念行事を盛況のうちに開催することができました。ご協力いただいた皆様には心より感謝申し上げます。紙面上ではありますが、こうしてご報告できることが、何よりうれしく思います。私は特に、周年行事前半の子どもたちによる音楽会のこと忘れられません。指揮者を一心に見つめ、賢明に歌い、演奏する子どもたちの姿を見て思わず目頭が熱くなることもありましたが、それにもまして私は、6年生の取り組みの姿に感心しました。

6年生はこれまでどちらかというと「力は持っているのだが引込み思案で、なかなか前面に出たがらない」といった内弁慶的なイメージがありました。それでも児童個々と話すと、「自分が140周年の最高学年である」という矜持(きょうじ)をしっかりと持っています。そんな子どもたちが、春の運動家に続いて、全校をリードして周年行事や音楽会全体を進めていく立場におかれまして。また、音楽会でも締めとなる重要な役割を引き受けることとなりました。運動会では春ということもあり、多分にお仕着せのリーダー的なところがありましたが、今回は本当の力、その真価が問われるところです。進行の計画や調整、当初の計画にはなかった各学年の紹介映像の作成など、分担したそれぞれが責任を持って取り組み始めました。自分たち以外の学年の一生懸命な取り組みに触れる中、次第にリーダーとしての意識も高まり、それに伴うように、自分たちの演奏への取り組みも変化していきました。一人ひとりが休み時間を使って取り組むような努力の姿もありました。担任や音楽の先生の「君たちには、ここまで期待する。」という熱心で丁寧な働きかけもありました。いつかしたら、互いが互いの演奏について教え合い、できる限りの良いものを作ろうという気運も盛り上がってきました。

音楽会当日、6年生進行のもと、各学年が自分たちの積み上げてきた演奏を披露します。どの学年の発表もすばらしい出来映えでした。いよいよ最後の演目、「情熱大陸」です。緊張した面持ちで楽器を用意し、席に着き演奏が始まりました。するとそれまでの緊張が嘘のように、表情がリラックスし、互いの音を聞き合い、演奏に集中していきました。この瞬間6年生の気持ちが一つになり、やがて観客の手拍子とともに、会場全体が一つになって7分間の演奏を終了しました。やり遂げた子どもたちの顔に安堵とともに自信のようなものを感じたのは私一人ではなかったと思います。先にも述べましたが、どちらかという先生方に後押しされてきた6年生ですが、今回の周年行事・音楽会を立派にやり遂げ、最高学年として自分の置かれた立場を意識し、その立場にある者としての「矜持」「プライド」といったものを見せてくれたと思います。

6年生だけにとどまらず、同様の学びは今回の140周年行事を通して、全学年の中に幾多もありました。本校職員、保護者の皆様も含めて、オール千秀としての「矜持」「誇り」を持っていけたら、どんなにかすてきなことと思います。ありがとうございました。